

学年別漢字配当表の字種選定をめぐって — 頻度下位 10 字種を中心に —

丹 保 健 一*

A Study on Choosing Chinese Characters for the Primary School Kanji Table: Based on Ten Most Infrequent Chinese Characters

Ken-ichi TAMBO

要 旨

学年別漢字配当表漢字の中で頻度が下位の 10 字種（「蚕」「笛」「后」「朗」「俵」「陞」「穀」「汽」「絹」「班」）について、学年別漢字配当表漢字としての妥当性を「頻度」「造語力」「習得難易度」「文字親密度」などから検討し、疑念のあるものとして、「蚕」、「陞」、「后」、「穀」の 4 字種を指摘した。

キーワード：学年別漢字配当表、字種選定、頻度、造語力、親密度

0 はじめに

0.1 対 象

「学年別漢字配当表」に入っている漢字（以下「学習漢字」という。）の字種選定については、すでに「蚕」、「甘」、「環・尺」を取り上げた。本研究では、頻度が低いにもかかわらず「学習漢字」に入っている下記の 10 字種について検討したい。ただし、「蚕」についてはすでに取り上げたのでここでは詳述しない。

表 1 頻度の低い「学習漢字」10 字種

字種	学年	頻度	順位	字種	学年	頻度	順位
蚕	G 6	443	1915	絹	G 6	1746	1728
俵	G 5	1055	1828	后	G 6	1913	1707
汽	G 2	1395	1777	穀	G 6	2023	1681
笛	G 3	1479	1766	班	G 6	2173	1658
陞	G 6	1500	1764	朗	G 6	2223	1653

※頻度は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス (DVD 版)」(以下「BCCWJ」という。)<注1>の LUWTSV (長単位タブ区切り表形式テキストデータ) から「原文文字列」を抽出したものを対象とし、筆者作成のスクリプト (プログラミング言語「Ruby」) よって検索・算出したものである。「少納言」インターフェイスによる検索結果と若干の相違 (正確には「国会会議録」に相違) が見られることもあるが、本発表の結論に影響を与える程の数値ではない。<注2>

※順位は、「BCCWJ」における旧常用漢字 1945 字中の出現順位を示す。

* 三重大学教育学部

0.2 字種選定指標について

「当用漢字別表（教育漢字）」や新旧「常用漢字表」の字種選定の考え方を見ると、「頻度」、「造語力（熟語構成力）」が大きな位置を占めている。この他、固有名詞であるか否かも重要な指標になっている。「当用漢字別表（教育漢字）」においては、頻度、造語力の他、教科等指導上・日常生活上の必要性、習得の難易度、分かりやすさ、音・訓の有無、読み取りの効率性、文化の継承等も考慮している。

本研究では、10字種の「学習漢字」としての妥当性を、「頻度」、「造語力」、「教科上の重要性」、「習得難易度」、「音訓の有無」、「画数」といった視点はもとより、「文字の親密度」、「文字の主観的複雑度（わかりやくさ）」「文字構成素」といった視点をも加えて検討してみたい。

0.3 進め方

- (1) 頻度は、「BCCWJ」を主たる対象とする。「朝日新聞」（「聞蔵Ⅱ」インターフェイスによる）や現行「常用漢字表」の字種選定調査資料でもある「書籍860冊分の凸版組み版データ」（『漢字頻度数調査（3）』^{<注3>}）も参考にする。
- (2) 造語力（熟語構成力）については、当該字種を含む語を各種教育基本語彙表（『教育基本語彙の基本的研究』^{<注4>}）によって調査する。
- (3) 教科等の指導に必要な重要語彙であるかについては、「教科書コーパス語彙表」^{<注5>}によって調査する。なお『小学校学習指導要領』^{<注6>}には、対象としている10字種は「学年別漢字配当表」以外には見られなかったため今回は触れない。（なお、『小学校学習指導要領』には、「笛」は皆無であったが、「リコーダー」は見られた。）
- (4) 生活上の必要性との関連では、文字の親密度（『日本語の語彙特性 第5巻』）によって見ていきたい。
- (5) 児童の漢字習得の難易度については、近年実施された大規模な調査である有元（2006）「児童生徒の「学習漢字」と語彙の習得に関する基礎的調査研究」^{<注7>}によって見ていきたい。
- (6) 分かりやすさとの関連については、「文字の主観的複雑度」（『日本語の語彙特性 第5巻』）によりたい。
- (7) 各字種の音訓、画数、文字構成素との関連についても触れたい。
- (8) 上記（1）～（7）によって、「学習漢字」としての妥当性を総合的に考えたい。

1 頻 度

1.1 「BCCWJ」における漢字頻度調査

次に示した表2は、頻度下位10字種の「BCCWJ」における頻度及び比率を示したものである。表を見ると、10字種の頻度・率の低さが分かる。表3に示した当該字種前後順位3字を見ることによってもその頻度・率の低さを実感することができよう。

頻度・比率からすれば、これらの10字種は「学習漢字」（1006字）に含めがたい漢字であるということができる。しかし、頻度だけで「学習漢字」の是非を決定することはできないことは言うまでもない。

学年別漢字配当表の字種選定をめぐって

表2 頻度下位 10 字種の頻度および比率

	順位 A	学年	頻度	比率	順位 B	順位 C
朗	997	G 6	2223	0.0043%	1653	1405
班	998	G 6	2173	0.0042%	1658	1630
穀	999	G 6	2023	0.0039%	1681	2186
后	1000	G 6	1913	0.0037%	1707	1735
絹	1001	G 6	1746	0.0034%	1728	1892
陞	1002	G 6	1500	0.0029%	1764	1691
笛	1003	G 3	1479	0.0029%	1766	1897
汽	1004	G 2	1396	0.0027%	1777	2138
俵	1005	G 5	1055	0.0020%	1828	2144
蚕	1006	G 6	443	0.0009%	1915	2846

※順位 A は、「学習漢字」1006 字中の順位である。

※比率は、1006 字における比率である。比率の理論上の平均値は 0.0994% である。

※順位 B は、旧「常用漢字」1945 字中の順位である。

※順位 C は、「書籍 860 冊分の凸版組み版データ」による。出現した全ての漢字における順位である。

表3 当該字種及び当該字種前後各 3 字種の頻度一覧（順位は 1945 字中）

順位	語形	頻度	順位	語形	頻度	順位	語形	頻度
1650	穫	2233	1706	閱	1915	1774	胴	1412
1651	郊	2228	1707	后 G 6	1913	1775	遷	1409
1652	芳	2226	1708	諾	1909	1776	吟	1399
1653	朗 G 6	2223	1709	尉	1905	1777	汽 G 2	1396
1654	軌	2215	1710	昆	1898	1778	弦	1381
1655	据	2214	1725	戲	1772	1779	帆	1381
1656	轄	2186	1726	庶	1755	1780	飢	1379
1657	泡	2180	1727	郭	1746	1825	勅	1071
1658	班 G 6	2173	1728	絹 G 6	1746	1826	棺	1064
1659	媒	2170	1729	堪	1745	1827	賄	1060
1660	曇	2163	1730	枢	1744	1828	俵 G 5	1055
1661	款	2161	1731	墨	1735	1829	肅	1048
1678	沸	2056	1761	妄	1512	1830	紺	1044
1679	迅	2036	1762	釀	1508	1831	薰	1041
1680	滴	2032	1763	妃	1506	1912	斥	482
1681	穀 G 6	2023	1764	陞 G 6	1500	1913	淑	474
1682	卑	2022	1765	赴	1499	1914	嚇	448
1683	旋	2021	1766	笛 G 3	1479	1915	蚕 G 6	443
1684	偵	2021	1767	閱	1460	1916	酪	421
1704	忌	1922	1768	辱	1457	1917	壺	410
1705	溝	1919	1769	渦	1437	1918	陪	368

※G の印がない漢字は全て学習漢字外漢字である。

1.2 「朝日新聞」(’85~89、’08~12)に見られる頻度

次に示した表は、朝日新聞の1985~1989年、2008~2012年における10字種の頻度一覧である。

表4 頻度下位10字種頻度一覧(「朝日新聞」)

年度	蚕	俵	汽	笛	陞	絹	后	穀	班	朗
1985	26	120	244	60	174	46	43	190	332	317
1986	20	95	134	45	208	40	48	141	489	378
1987	26	135	87	71	299	43	75	108	391	389
1988	44	194	150	91	724	72	77	199	364	587
1989	40	144	167	104	617	116	234	120	349	572
小計	156	688	782	371	2022	317	477	758	1925	2243
2008	23	316	65	185	145	89	124	358	259	835
2009	23	243	80	97	237	65	175	146	226	954
2010	23	353	93	146	154	57	118	108	246	952
2011	17	254	72	138	151	87	122	174	330	1175
2012	17	229	74	141	226	70	127	153	337	1134
小計	103	1395	384	707	913	368	666	939	1398	5050
A	0.66	2.03	0.49	1.91	0.45	1.16	1.40	1.24	0.73	2.25
B	0.46	1.42	0.34	1.33	0.32	0.81	0.98	0.87	0.51	1.57

※A(見かけ上の増加率)=1985~1989頻度/2008~2012頻度

※B(修正増加率)=増加率A/1.43(1.43は頻度上位5字種の平均増加率)^{<注8>}

※朝日新聞、朝刊、本文、東京、本紙、異体字を含む。検索日2013年1月30日
「聞蔵Ⅱ」(インターネット検索)による。

上記表4のB欄を見ると、各語頻度の増減傾向を見ることができる。その中では、蚕の0.46、汽の0.34、陞の0.32が注目される。2008-2012の頻度においても、「蚕」は最も少なく(103)、「汽」が続いている(384)。

増加傾向にあるものとして、増加率1.57の「朗」を挙げることができる。「朗」は頻度も多いが、「朗」の特殊性を考慮する必要がある。一つは、名前に用いられることが多いこと、もう一つは、選挙などがある年度にはその頻度が多くなるという点である。(ちなみに「BCCWJ」(新聞)では、頻度117の内、名前に用いられている例は62で、半数以上(53%)であった。)

頻度順は(1985~1989、2008~2012)は、次のように示すことができる。^{<注9>}

頻度・昇順(1985~1989) ①蚕, ②絹, ③笛, ④后, ⑤俵, ⑥穀, ⑦汽, ⑧班, ⑨陞, ⑩朗

頻度・昇順(2008~2012) ①蚕, ②汽, ③絹, ④后, ⑤笛, ⑥陞, ⑦穀, ⑧俵, ⑨班, ⑩朗

<参考>

頻度・昇順(「BCCWJ」(新聞)) ①蚕, ②汽, ③陞, ④后, ⑤穀, ⑥笛, ⑦絹, ⑧俵, ⑨班, ⑩朗

頻度・昇順(「BCCWJ」(全体)) ①蚕, ②俵, ③汽, ④笛, ⑤陞, ⑥絹, ⑦后, ⑧穀, ⑨班, ⑩朗

2008~2012のデータによると、頻度の最も少ないものとしては「蚕」「汽」「絹」が際立っている。

また、「朗」の頻度が10字種の中では抜きん出て高いことも大きな特徴である。「朗」が突出しているのは、先に指摘したように名前の一部に用いられていることが要因の一つである。しかし、それを考

慮しても他に比べれば頻度は高い。また、「朗」の他にも名前に用いられる語（「俵」、「笛」）があり考慮する必要がある。

名前（固有名詞）に用いられる漢字の取り扱いについては、新「常用漢字表」では例外的に都道府県名に含まれる字種（「岡山」「大阪」の「岡」「阪」など）を全て取り入れている。しかし、頻度が高くても名前に使われることの多い「伊藤」の「伊」などは採用していない。人名・地名に使用される字種の検討は、別に機会に取り上げたい。

2 造語力（教育基本語彙）

字種選定において造語力の視点は重要である。ただ「学習漢字」の字種選定においては、児童が見聞きする語彙の造語成分であるかを見ていく必要がある。ここでは、各種教育基本語彙集（とりわけ「坂本」「新坂本」）に収められている語彙を中心によって見ておくことにしたい。表5に示した語形及びランクは『教育基本語彙の基本的研究－増補改訂版－』によっている。（一般の辞書に見られる語は〈注10〉を参照されたし。）

表5 各種教育基本語彙表に見られる該当漢字を含む語形一覧

読み	語形	阪	新	田	池	児	中	国	計
かいこ	【蚕】	A 1	A 1	③	3 B				4
さんしつ	【蚕】室	C 4							1
さんしょく	【蚕】食	C 4	C 4						2
そらまめ	空豆・〈【蚕】豆〉	A 2	A 2						2
はるご	春△【蚕】		B 3						1
ようさん	養【蚕】	B 2	B 2						2
すみだわら	炭【俵】	A 2	A 2						2
たわら	【俵】	A 1	A 1				A		3
どひょう	土【俵】	A 2	A 2						2
ひょう	【俵】	A 1							1
きしゃ	【汽】車	A 1	A 1	①	1 A 2		A	◎	6
きせん	【汽】船	A 1	A 1	②	1 B 2			○	5
きてき	【汽】笛	A 1	A 1	②	2 A				4
よぎしゃ	夜【汽】車	B 2							1
きてき	汽【笛】	A 1	A 1	②	2 A				4
くさぶえ	草【笛】	B 3	B 3						2
くちぶえ	口【笛】	A 2	A 2	③					3
けいてき	警【笛】	B 2		④					2
つのぶえ	角【笛】	B 3	B 3						2
ふえ	【笛】	A 1	A 1	②	1 B 2		A	○	6
ふえふき	【笛】吹き	A 2							1
むぎぶえ	麦【笛】	B 3	B 3						2
よこぶえ	横【笛】	B 3	B 3						2
きんじょうへいか	今上【陞】下	C 4							1

読み	語形	阪	新	田	池	児	中	国	計
へいか	【陛】下	A 1	A 1						2
きぬ	【絹】	B 1					B	○	3
きぬいと	【絹】糸	A 2	A 2						2
きぬおりもの	【絹】織物	B 2							1
けんし	【絹】糸	C 4							1
しらぎぬ	白【絹】	C 4							1
じんけん	人【絹】	B 3							1
きさき	△【后】	B 1	B 1						2
こうごう	皇【后】	A 1	A 1				B	○	4
こうたいごう	皇太【后】	C 2	C 2						2
こく	【穀】	C 4							1
こくそう	【穀】倉	C 3							1
ごくつぶし	△【穀】×潰し	C 4							1
こくもつ	【穀】物	B 1	B 1	⑤			B		4
こくるい	【穀】類	C 4							1
ごこく	五【穀】	C 1	C 1						2
だっこく	脱【穀】	C 1	C 1						2
べいこく	米【穀】	C 1	C 1						2
しゅはん	首【班】	C 1							1
はん	【班】	B 1	B 1	④	2 A		A	○	6
せいろう	晴【朗】	C 4	C 4						2
ほがらか	【朗】らか	A 1	A 1	④	3 B		B	○	6
めいろう	明【朗】	C 2	C 2				C	○	4
ろうえい	【朗】詠	C 3	C 3						2
ろうぎん	【朗】吟		C 1						1
ろうしょう	【朗】唱・【朗】×誦		C 3						1
ろうどく	【朗】読	B 1	B 1	⑥	3 A				4
ろうほう	【朗】報	C 2	C 2						2

※下線は「新」の A 1～3、B 1～3 の語彙であることを示す。

※△は旧常用漢字外の音訓であることを、×は旧常用漢字外漢字であることを示す。

※「阪」、「新」、「田」、「池」、「児」、「中」、「国」、は各々、「阪本一郎『教育基本語彙』(1958)」、「阪本一郎『新教育基本語彙』(1984)」、「田中久直『学習基本語彙』(1956)」、「池原樞雄『国語教育のための基本語体系』(1957)」、「児童言語研究会『言語要素指導』(1962)」、「中央教育研究所『学習基本語彙』(1984)」、「国立国語研究所『日本語教育のための基本語彙調査』(1984)」を示す。

※「阪」「新」においては、A 1～A 3 は小学校第 1～第 3 学年、B 1～B 3 は小学校第 4～第 6 学年、C 1～C 3 は中学校、「田中」においては、①～⑥は各学年、「池原」においては、1 A～3 B は重要度、「児言研」においては、小 A、小 B、中 A、中 B は、学習段階(小学校中学校)と重要度(Aの方が重要)、「中央」においては、A は小学校低学年、B は小学校中学年、C は小学校高学年、「国研」においては、◎は 2071 語、○は 4033 語、◎の方がより基本的な語であることを示している。

はじめに各種語彙表の問題点を指摘しておきたい。第一に指摘したいのが、「はるご（春蚕）」「むぎぶえ（麦笛）」「じんけん（人絹）」などの今となっては子ども達が殆ど耳にしない語が見られることである。その点から言えることは、各種の教育基本語彙表には、時代遅れとなっている語が混在していることである。これには十分注意する必要がある。

それと共に、教育基本語彙表で取り上げているからと言って、それを含む語の漢字表記が「学習漢字」であるべきだと言えないことがあることも指摘しておきたい。その例として、「朗（ほが）らか」「きさき（后）」を挙げることができる。「阪」「新」では、「ほがらか」「きさき」をA1（小学校1年）に位置付けているが、「朗」の読みとしての「ほが（らか）」は、「音訓の小・中・高等学校段階割り振り表」（文科省）では中学校に割り振られており、また「后」の訓読みである「きさき」は常用漢字外の読みである。つまり、「語彙」として教育基本語彙性が高くても、それが即「学習漢字」とならないことに注意する必要がある。しかし、その逆は真でない。子ども達が全く見聞きすることのない語彙のみに対応している漢字は、「学習漢字」としては相応しくない。

「学習漢字」として相応しいかを「教育基本語彙」の造語成分であるか否かの視点から見れば、時代遅れになった語を除いても10字種の総てが資格有りと言うことになる。ただ、「陞」を造語成分とする語は「陛下」の1語のみであり、「穀」を造語成分とする語は中学校レベルでは多くの語が見られるものの小学校では「穀物」のみであることも指摘しておきたい。

3 小学校教科書に見られる語彙

次に示した表は、小中高2005年度教科書（144冊）に見られる該当10字種（またはそれに対応する仮名）を含む語彙一覧である。

表6 小中高2005年度教科書（144冊）に見られる該当字種を含む語彙の頻度

読み	語形	計	小	中	高	国	数	理	社	技	芸	保	生
カイコ	【蚕】	10	1	3	6	0	0	0	0	1	0	0	0
カイコガ	【蚕】 蛾	29	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0
ゴカイ	沙【蚕】	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
サンシ	【蚕】 糸	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
サンラン	【蚕】 卵	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
シュウサン	秋【蚕】	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
シュンサン	春【蚕】	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
ナツゴ	夏【蚕】	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ヨウサン	養【蚕】	11	2	3	6	1	0	0	1	0	0	0	0
小計（蚕）		61	3	7	51	1	0	0	1	1	0	0	0
コメダワラ	米【俵】	5	4	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0
タワラ	【俵】	9	6	1	2	2	4	0	0	0	0	0	0
タワラモノ	【俵】 物	7	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
ヒョウ	【俵】	2	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
小計（俵）		23	11	2	10	5	4	0	2	0	0	0	0
キシヤ	【汽】 車	19	9	5	5	7	1	0	0	0	1	0	0
キスイ	【汽】 水	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

丹 保 健 一

読み	語形	計	小	中	高	国	数	理	社	技	芸	保	生
キセン	【汽】船	16	0	2	14	0	0	0	0	0	0	0	0
キテキ	【汽】笛	9	8	0	1	7	0	0	0	0	1	0	0
小計(汽)		45	17	7	21	14	1	0	0	0	2	0	0
アシブエ	葦【笛】	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
カミブエ	紙【笛】	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
キテキ	汽【笛】	9	8	0	1	7	0	0	0	0	1	0	0
クサブエ	草【笛】	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
クチブエ	口【笛】	9	6	1	2	5	0	0	0	0	1	0	0
シノブエ	篠【笛】	11	1	6	4	0	0	0	0	0	1	0	0
タテブエ	縦【笛】	6	1	0	5	0	0	0	0	0	1	0	0
ツノブエ	角【笛】	5	1	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0
ノドブエ	喉【笛】	3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
フエ	【笛】	49	15	15	19	4	0	0	1	0	10	0	0
マテキ	魔【笛】	7	0	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0
ヨコブエ	横【笛】	5	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0
リュウテキ	竜【笛】	3	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
小計(笛)		111	33	30	48	17	0	0	1	0	14	0	1
ヘイカ	【陞】下	4	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0
小計(陞)		4	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0
アヤギヌ	綾【絹】	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
キヌ	【絹】	121	4	17	100	1	0	0	2	1	0	0	0
キヌイト	【絹】糸	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
キヌセイ	【絹】製	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
クロギヌ	黒【絹】	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ケンウン	【絹】雲	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
ケンギョウ	【絹】業	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ケンシ	【絹】糸	6	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0
ケンシャ	【絹】紗	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ケンブ	【絹】布	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0
ケンボン	【絹】本	6	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0
タレギヌ	垂れ【絹】	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
小計(絹)		153	4	21	128	1	0	0	2	1	0	0	0
オオキサキ	大【后】	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
キサキ	【后】	6	2	1	3	0	0	0	2	0	0	0	0
コウ	【后】	11	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0
コウゴウ	皇【后】	37	1	2	34	1	0	0	0	0	0	0	0
コウタイゴウ	皇太【后】	7	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
コウヒ	【后】妃	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
タイゴウ	太【后】	7	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0

学年別漢字配当表の字種選定をめぐって

読み	語形	計	小	中	高	国	数	理	社	技	芸	保	生
ボコウ	母【后】	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
小計(后)		76	3	3	70	1	0	0	2	0	0	0	0
コク	【穀】	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コクソウ	【穀】倉	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0
コクヌスト	【穀】盗	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
コクモツ	【穀】物	117	4	8	105	2	0	1	1	0	0	0	0
コクリュウ	【穀】粒	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
コクルイ	【穀】類	20	0	3	17	0	0	0	0	0	0	0	0
ゴコク	五【穀】	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
ザッコク	雑【穀】	9	0	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0
ダッコク	脱【穀】	7	1	2	4	0	0	0	1	0	0	0	0
バイコク	米【穀】	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
ボウコク	防【穀】	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
小計(穀)		174	5	16	153	2	0	1	2	0	0	0	0
シュハン	首【班】	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
ハン	【班】	109	28	44	37	2	21	0	2	0	3	0	0
ハンキュウ	【班】給	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
ハンデン	【班】田	12	0	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0
ハンネン	【班】年	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ハンメイ	【班】名	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ヤンバン	両【班】	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
小計(班)		133	28	45	60	2	21	0	2	0	3	0	0
ホガラカ	【朗】らか	3	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
メイロウ	明【朗】	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ロウエイ	【朗】詠	16	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0
ロウショウ	【朗】唱	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ロウショウ	【朗】誦	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ロウドク	【朗】読	62	13	19	30	3	0	0	2	0	8	0	0
ロウホウ	【朗】報	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
ロウロウ	【朗】々	4	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0
小計(朗)		89	15	23	51	5	0	0	2	0	8	0	0

※「計」；小中高の合計、「小」；小学校、「中」；中学校、「高」；高等学校、「国」；国語、「数」；算数・数学、「理」；理科、「社」；社会、「技」；技術家庭、「芸」；芸術、「保」；保健体育、「生」；生活科

小学校の教科書に見られる10字種（またはそれに対応する仮名）の頻度は次のようにまとめることができる。

表7 小中学校教科書における頻度

① 陛 01 <02> {004} (00) [01]	⑥ 俵 11 <13> {023} (06) [05]
② 蚕 03 <10> {061} (02) [01]	⑧ 朗 15 <38> {089} (10) [05]
③ 后 03 <06> {076} (02) [01]	⑦ 汽 17 <24> {045} (03) [14]
④ 絹 04 <25> {153} (03) [01]	⑨ 班 28 <73> {133} (26) [02]
⑤ 穀 05 <21> {174} (03) [02]	⑩ 笛 33 <63> {111} (16) [17]

※各語右の数値は小学校教科書、< >内の数値は小中学校教科書、{ }内の数値は小中高等学校教科書、()内は国語を除く小学校教科書、[]内は小学校国語教科書の頻度を示す。

「陛」「蚕」「后」（またはそれに対応する仮名）を含む小学校教科書語彙の頻度は、各々1、3、3と低く、中学校を含めると、2、10、6であり極めて低い。

「俵・たわら・ひょう」「汽・き」「笛・ふえ・てき」の順位が「BCCWJ」と異なることにも注目したい。とりわけ「俵・たわら・ひょう」「汽・き」（「汽車・きしゃ」「汽笛・きてき）」「笛・ふえ・てき」の小学校教科書語彙における比率が高いことに注目したい。子供達にとって、「班・はん」などともに馴染みの深い語彙と言えるのかもしれない。「BCCWJ」や「新聞」の頻度だけでは見えてこない一面である。

4 文字の親密度（『日本語の語彙特性 第5巻』による）

次に、各々の字種の親密度を見ておこう。ただ、文字親密度評定実験の被験者は20歳台の日本人男女各12名計24名であることに留意しておきたい。評価は、低(1)～高(7)の7段階評定。実施は1994年12月～1995年1月。（『日本語の語彙特性 第5巻』pp.xxii-xxiiiによる。）

表8 親密度（昇順）

① 蚕 4.79	② 陛 5.00	③ 俵 5.21	④ 后 5.33	⑤ 穀 5.46
⑥ 汽 5.54	⑦ 笛 5.58	⑧ 朗 5.67	⑨ 絹 5.79	⑩ 班 5.83

親密度は、文字の「なじみ」の度合いを調査したものであり、幼い頃の日常生活に深く関わっている語であればあるほど高い数値が出やすいものと思われる。ちなみに親密度6.5以上の字種197の内、「学習漢字」は195（98.98%）を占める。親密度6.62以上では、100%である。親密度4.75以下では、「学習漢字」は見られない。親密度と「学習漢字」には高い相関関係があることが推測できる。

10字種の親密度を見ると、「蚕」「陛」「俵」「后」「穀」は各々4.49、5.00、5.21、5.33、5.46となっている。これらの数値を持つ「学習漢字」、旧常用漢字は当該字種以外には見られない。「汽」の親密度5.54には、67の旧常用漢字、10の「学習漢字」が見られる。「笛」5.58、「朗」5.67、「絹」5.79、「班」5.83には、多くの「学習漢字」、旧常用漢字が見られる。

親密度の数値からは、「蚕」「陛」「俵」「后」「穀」は、他の「学習漢字」と比べると特殊な位置を占めていることが分かる。また、「俵」は、「教科書コーパス語彙表」の頻度からすると逆の傾向を示している。「俵」に関して言えば、成人と子供との親密度の相違についても考える必要があろう。

5 学習難易度

学習難易度を有元（2006）から見ておこう。次の表は、有元（2006）の「読み」、「書き」の調査結果を示したものである。

表9 「読み」調査

漢字	語句	配当	今回	文化庁	差	正解	回答	率
蚕	【蚕】	6	62.8	67	-4.2	86	137	62.8
俵	【俵】	5	72.5	60	12.5	95	131	72.5
陛	皇后【陛】下	6	87.6	90	-2.4	113	129	87.6
絹	【絹】いと	6	83.5	83	0.5	116	139	83.5
后	皇【后】陛下	6	73.6	88	-14.4	95	129	73.6
穀	【穀】物	6	69.3	80	-10.7	95	137	69.3
朗	【朗】らか	6	14.3	24	-9.7	20	140	14.3

※「配当」：配当学年 ※「今回」：今回（2004年）の調査
 ※「文化庁」：文化庁による1946-1967年調査
 ※「差」：文化庁調査と今回調査（有元調査）の差
 ※「正解」：正解数 ※「回答」：回答数 ※「率」：回答率

表10 「書き」調査

漢字	語句	配当	今回	文化庁	差	正解	回答	率
蚕	【蚕】	6	42.2	67	-24.8	57	135	42.2
俵	【俵】	5	66.4	70	-3.6	91	137	66.4
笛	口【笛】	3	73.2	63.2	10	101	138	73.2
陛	皇后【陛】下	6	41.1	38	3.1	53	129	41.1
絹	【絹】いと	6	60.3	80	-19.7	70	116	60.3
后	皇【后】陛下	6	41.9	70	-28.1	54	129	41.9
穀	【穀】物	6	27.6	53	-25.4	32	116	27.6
班	【班】長	6	95.5	52	43.5	126	132	95.5

※「配当」：配当学年 ※「今回」：今回（2004年）の調査
 ※「文化庁」：文化庁による1946-1967年調査
 ※「差」：文化庁調査と今回調査（有元調査）の差
 ※「正解」：正解数 ※「回答」：回答数 ※「率」：回答率

表9見ると、「朗らか」の「読み」の正解率が極めて低いことが目に付く。「朗」の訓読みである「ほが（らか）」が小学校で教わらない読みであることが大きく影響していると思われる。

表10の「書き」では、「穀」「陛」「后」「蚕」の正解率が低い。とりわけ、「穀」の回答率が極めて低いことに注目しておきたい。

6 複雑度

次に、わかりにくさを各々の字種の複雑度（『日本語の語彙特性第5巻』）によって見ておこう。主観的複雑度評定実験の被験者、実施年月日は、親密度実験と同じである。評定は、低(1)－高(7)の7段階評定を行っている。（『日本語の語彙特性 第5巻』 pp.xxx-xxxi による。）

表 11 文字の主観的複雑度

①后	3.12	②笛	3.67	③汽	3.71	④陞	3.83	⑤俵	3.88
⑥蚕	3.92	⑦朗	4.00	⑧班	4.04	⑨絹	4.17	⑩穀	4.88

これらの数値を見ると主観的複雑度と「学習漢字」との相関関係は低いように思われる。実際、複雑度の低い字種にも多くの「学習漢字」外漢字が見られ、かなり高いもの（極端に高いものは除く）にも「学習漢字」が見られるからである。例えば、低いものとしては、七（2.00）、几（2.24）、巾（2.24）、巳（2.46）、卅（2.46）などが見られる。高いものとしては、識（4.92）、劇（4.83）、奮（4.83）機（4.76、）職（4.76）、潔（4.75）、誕（4.75）、警（4.75）などがある。なお、4.92を超えるものには「学習漢字」は見られない。

このようなことから、極端に高いものを除けば、複雑度が「学習漢字」の選定指標となる優先順位は低いものと思われる。

7 その他の観点

7.1 音・訓（旧常用漢字表内）

10字種の音訓は次に示した通りである。少なくともこれらの10字種に関して言えば、音訓両方の読みを持っているか否かが「学習漢字」とすべきかの選定指標となることはないように思われる。ただ、これらの10字種の中では、「班」を除けば音訓が揃っている漢字の方が易しく感じられるのではないかと思われる。「朗」の訓「ほが（らか）」が小学校ではなく中学校に割り振りされていることにも留意しておきたい。

各語の音訓（小学校段階における音訓）

音訓が揃っている字種

「蚕」：サン／かいこ、 「俵」：ヒョウ／たたみ、

「笛」：テキ／ふえ、 「絹」：ケン／きぬ、

音のみの字種

「汽」：キ、 「陞」：ヘイ、 「后」：コウ、 「穀」：コク、

「班」：ハン、 「朗」：ロウ

※「ほが（朗）らか」は「中学校」に振り分けられている読みである。

※常用漢字表外の読みとしては、后：「きさき」、朗：「あき（らか）」、「あき」等がある。

7.2 画数

10字種の画数は7画から14画であり、「学習漢字」内で上位を占めているわけではない。10字種に限って言えば、画数の多少が「学習漢字」を選定する優位な指標であるとは考えにくい。

表 12 各漢字の画数

6画	后
7画	汽
10画	蚕、俵、班、朗
11画	笛、陞
13画	絹
14画	穀

表 13 画数の多い「学習漢字」(17~20画)

17画	績(5), 講(5), 謝(5), 優(6), 蔽(6), 縮(6), 覧(6)
18画	曜(2), 顔(2), 題(3), 観(4), 類(4), 験(4), 織(5), 職(5), 額(5), 簡(6), 臨(6), 難(6)
19画	鏡(4), 願(4), 識(5), 臓(6), 警(6)
20画	競(4), 議(5), 護(5)

7.3 文字構成要素(文字素・書記素)

これら10字種の文字構成要素を見ると、構成は単純で各構成要素も殆どが他の語でも使われ、よく見られるものが多い。

「尸」(「后」の口を除いた部分)、「垚」(「陞」の右部分)、「糝」(「穀」の左部分)は、他の「学習漢字」の文字構成要素として見られないためやや複雑であると感じる可能性はあろう。しかし、これらの10字種の文字素・文字構成要素からは、「学習漢字」であることを否定する決定的な要因であると言うことはできないように思われる。

表 14 各語の文字素(案)^{<注11>}

蚕 = 天 + 虫、	俵 = 亻 + 表、	汽 = 氵 + 气、
笛 = 竹 + 由、	陞 = 阝 + 垚(比+土)、	絹 = 糸 + 冂(口+月)、
后 = 尸 + 口、	穀 = 糝 + 夂(ル+又)、	班 = 王 + リ + 王、
朗 = 良 + 月		

8 まとめ

ここまで、頻度下位10字種の、頻度、造語力、親密度、習得率、複雑度、音訓、画数、文字素・文字構成素について見てきた。「学習漢字」としての妥当性について幾つかの点を指摘しておきたい。

- (1) 「BCCWJ」の頻度を見ると、これらの10字種は他の「学習漢字」と比較してかなり特殊である。数値のみから言えば、「学習漢字」外漢字と位置づけてもおかしくないものである。「学習漢字」として認めるにはそれなりの根拠が求められる。
- (2) 「教育基本語彙」の調査からは、これらの10字種(またはそれに対応する仮名)はいずれも小学校レベルの教育基本語彙に見られる。しかし、平仮名表記とする方法もあり、別の視点からの判断が必要である。
- (3) 「教科書コーパス語彙表」からは、「BCCWJ」や「新聞」の傾向とは異なり、「汽車・きしゃ」「班・はん」「俵・たわら・ひょう」「笛・ふえ・てき」を含むが多くの語彙が見られた。一方、「陞」「蚕」「后」のように極めて頻度が少ないものもある。教科書における語彙頻度からすれば、これら「陞」「蚕」「后」は学習外漢字に位置づけてもよいだろう。
- (4) 「文字の親密度」の数値からは、「蚕」「陞」「俵」「后」「穀」が他の「学習漢字」と比べるとその値がかなり低いことが読み取れる。
- (5) 有元(2006)によれば、10字種の内、「穀」「陞」「后」「蚕」の解答率(書き)が極めて低く、習得が困難な字種であると言える。
- (6) 「文字の複雑度」からは、10字種については選択指標となり得ないことが分かった。
- (7) 「音訓」の有無、「画数」の多少、「文字構成要素および構成」の複雑さによっては、少なくともこれら10字種の「学習漢字」においては優位な指標とは言えない。ただ、「穀」「陞」「后」につい

ては、構成がやや複雑であることは指摘できる。

(8)「学習漢字」外漢字の候補

次の表は、有効と思われる「学習漢字」選定指標の一覧表である。他の「学習漢字」と比較して特異であると思われる場合は○、そうでない場合は－、△はその中間を表す。

表 15 10 指標別特異性一覧

	蚕	笛	后	朗	俵	陞	穀	汽	絹	班
①頻度 (BCCWJ) :	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②教育基本語彙 :	－	－	－	－	－	△	△	－	－	－
③教科書コーパス語彙 :	○	－	○	－	－	○	－	－	－	－
④親密度 :	○	－	○	－	○	○	○	－	－	－
⑤習得難易度 :	○	－	○	－	－	○	○	－	－	－
⑥構成複雑度 :	－	－	△	－	－	△	△	－	－	－

10 字種の内、「学習漢字」外漢字の最も有力な候補として次の漢字が考えられる。

「蚕」を最初に挙げたのは、頻度が極端に少ないことを考慮したためである。

①蚕 ②陞 ③后 ④穀

おわりに

本発表では、「学習漢字」の中でも頻度が低い漢字 10 字種について見てきた。しかし、本研究で示した考え方は、いつかの指標 (頻度等) からの結論であり、これまで指摘してこなかった指標 (日本の文化・伝統等) が加われば結論も変わってくる可能性がある。

今後の課題としては、「学習漢字」選択諸指標の関連性、頻度の高い「学習漢字」外漢字、固有名詞 (地名、人名) の取り扱い、等がある。

謝 辞

本研究では多くの資料・データを使用させていただきました。心より感謝申し上げます。

<注 1> 「BCCWJ」の各媒体別年度及びデータ量一覧

○書籍 (1971~2005 年、22,058 件、約 6,270 万語)、○雑誌 (2001~2005 年、1,996 件、約 440 万語)、○新聞 (2001~2005 年、1,473 件、約 140 万語)、○白書 (1976~2005 年、1,500 件、約 490 万語)、○教科書 (2005~2007 年、412 件、約 90 万語)、○広報紙 (2008 年、354 件、約 380 万語)、○Yahoo!知恵袋 (2005 年、91,445 件、約 1,030 万語)、○Yahoo!ブログ (2008 年、52,680 件、約 1,020 万語)、○韻文 (1980~2005 年、252 件、約 20 万語)、○法律 (1976~2005 年、346 件、約 110 万語)、○国会会議録 (1976~2005 年、159 件、約 510 万語)、総計 10,493 万語

<注 2> 関係者によれば、発言者の氏名が入っているか否かの相違であるとのこと。

<注 3> 「第 29 回漢字小委員会資料 2」(文化庁ホームページ) による。

<注 4> 以下は、『教育基本語彙の基本的研究—増補改訂版—』解説の要約

①阪本教育基本語彙 (坂本): 阪本一郎『教育基本語彙』(牧書店, 1958 年) 掲載語彙。A (小学校

第1～第3学年), B (小学校第4～第6学年), C (中学校) の3つに分けら、さらにそれらに優先順位が付けられている。収録語数 22500 (24740) 括弧内の数は、本発表で用いた『教育基本語彙の基本的研究—増補改訂版—』のデータに登録された数である。(以下同じ。)

- ②新阪本教育基本語彙 (新坂本): 阪本一郎『新教育基本語彙』(学芸図書, 1984年) 掲載語彙。阪本教育基本語彙の改訂版。A, B, C等の学習段階の表示は阪本教育基本語彙と同じである。収録語数 19271 (22500)

A 1: 3176 A 2: 1937 B 1: 2676 B 2: 2140 B 3: 1696

C 1: 2517 C 2: 2413 C 3: 2179 C 4: 2130

- ③田中教育基本語彙 (田中): 田中久直『学習基本語彙』(新光閣書店, 1956年) 掲載語彙。第1～第6学年までの指導学年が定められている。収録語数 3469 (3456)

- ④池原教育基本語彙 (池原): 池原栢雄『国語教育のための基本語体系』(六月社, 1957年) 掲載語彙。小学校低学年 (第1～第3学年) で指導する語彙が定められている。収録語数 3000 (2989)

- ⑤兄言研教育基本語彙 (兄言): 児童言語研究会『言語要素指導』(明治図書, 1962年) 掲載語彙。まず小学校と中学校の2つの指導段階に分け、さらにA (特に大切な語い) とB (A語に続くもの) の2つに分けている。収録語数 1955 (1846)

- ⑥中央教育基本語彙 (中央): 中央教育研究所『学習基本語彙』(中央教育研究所, 1984年) 掲載語彙。小学校用である。それぞれの語にA (第1・2学年), B (第3・4学年), C (第5・6学年) のどれかの指導段階が与えられている。収録語数 4322 (4336)

- ⑦国語研教育基本語彙 (国研): 国立国語研究所『日本語教育のための基本語彙調査』(秀英出版, 1984年) 掲載語彙。①～⑥の教育基本語彙と違って、外国人のための教育基本語彙として作成されたものである。収録語数 6060 (6104)、そのうち 2030 (2071) 語が「より基本的な語」

<注5> 「教科書コーパス」の対象は、2005年度に使用された教科書 144冊。

対象とする学年と教科は、小学校・中学校・高等学校で教えられている全体の把握が目的のため、全学年・全教科が対象。ただし、専門に分化した高等学校の一部の科目(「農」「商業」などいわゆる専門科目とされているもの)は対象外。各学年・各教科1種ずつ。その1種は、なるべく多くの学校、児童・生徒に使われているものとすべく、できるだけ発行部数の多いものから順次、出版元の教科書会社に依頼し、利用許諾が得られた教科書から、対象に定めた。このようにして教科書コーパスの対象に定めた教科書 144冊である。(田中(2011)より)

<注6> 「学習指導要領」には、つぎのような文言が見られる。

第2 内容等の取扱いに関する共通の事項

第2章以下に示す各教科、道徳、外国語活動及び特別活動の内容に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならない。

<注7> 有元(2006)について(有元(2006)より)

「この研究報告書は、小学校修了後の漢字の習得状況を調査するため、中学校第1学年の生徒約3,000人について、平成16年(2004年)9月～12月に行った調査結果をまとめたものである。

全部で、下記の4種類の調査を行った。A調査は、40年前に文化庁が行った漢字調査(1964-67)と比較し、漢字習得率を調査した。これは、漢字学力が、この40年間にどのように変化したかを明らかにするためである。ただし、文化庁調査と本調査では標本数が異なっており、当時とは学習指導要領も異なっているため、単純に比較することはできないがおおよその傾向が分かる。B調査は、自由記述によって、記述した文字数や文章内で漢字を正しく使用する能力を調査した。これは、漢字を用いて文章を記述する力を明らかにするためである。C調査は、小・中学生によく読まれているコミッ

ク誌・雑誌・ゲームソフトなどによく用いられている配当漢字外の漢字の読みの漢字習得率を調べた。これは、今の子どもたちが学校外のメディアからどのような漢字を学んでいるかを明らかにするためである。質問紙調査は学習や読書、テレビやゲームとの関わりの実態を調べ、漢字習得率との相関を明らかにした。これは、どのような学習体験や生活体験が漢字の習得に影響するかを明らかにするためである。」
 <注 8> 頻度高位 5 字種の（「1985～1989」から「2008～2012」への）増加率の平均は下記の表に示すように 1.43 である。

頻度上位 5 字種頻度調べ（「朝日新聞」：インターネット検索「聞蔵Ⅱ」による）

年	「人」	「一」	「日」	「年」	「大」	5 字種	5 字種増加率	「大」増加率
1985	17179	27177	28176	19177	20199	111908	1.00	1.00
1986	16935	27653	28235	18433	20209	111465	1.00	1.00
1987	19630	31904	32351	21316	23294	128495	1.15	1.15
1988	26061	40153	39599	26366	28801	160980	1.44	1.43
1989	27720	41859	41154	27106	29942	167781	1.50	1.48
小計	107525	168746	169515	112398	122445	680629		
2008	32794	50530	47350	34138	35505	200317	1.79	1.76
2009	31344	48220	44891	32936	33937	191328	1.71	1.68
2010	31259	47392	43676	31717	33162	187206	1.67	1.64
2011	31696	49831	46518	30843	36435	195323	1.75	1.80
2012	32440	52026	47830	33269	36462	202027	1.81	1.81
小計	159533	247999	230265	162903	175501	976201		
増加率	1.48	1.47	1.36	1.45	1.43	1.43		1.43

※朝日新聞、朝刊、本文、東京、本紙、異体字含む、聞蔵Ⅱ（20130130 検索）
 ※増加率：(2008～2012)／(1985～1989)
 ※「大」が増加率の 5 字種の増加率の平均に近い。

<注 9> 「BCCWJ」の新聞（2001～2005）の頻度

頻度昇順①蚕, ②汽, ③陞, ④后, ⑤穀, ⑥笛, ⑦絹, ⑧俵, ⑧班, ⑩朗

	蚕	俵	汽	笛	陞	絹	后	穀	班	朗
Bccwj (新聞)	0	37	8	28	9	31	10	22	37	117

<注 10> 国語辞書に見られる 10 字種を含む語一覧（『新明解国語辞典』第 5 版による）

あきご【秋蚕】	さくさん【柞蚕】	さんらん【蚕卵】
おかいこ【御蚕】	さん〔蚕〕	さんらんし【蚕卵紙】
おかいこぐるみ【御蚕ぐるみ】	さんぎょう【蚕業】	さんれい【蚕齡】
かいこ【蚕】	さんさ【蚕渣】	しゅうさん【秋蚕】
かさん【夏蚕】	さんし【蚕糸】	しゅんさん【春蚕】
けご【毛蚕】	さんし【蚕紙】	ちさん【稚蚕】
こ【蚕】	さんじ【蚕児】	なつご【夏蚕】
こかご【蚕籠】	さんしつ【蚕室】 【産室】	はるご【春蚕】
こくそ【蚕糞】	さんしゅ【蚕種】	ようさん【養蚕】
こだな【蚕棚】	さんしょく【蚕食】	こめだわら【米俵】

さんだわら【棧俵】	ゆびぶえ【指笛】	こうたいこう【皇太后】
すみだわら【炭俵】	よこぶえ【横笛】	こうたいこうぐう【皇太后宮】
たわら【俵】	てんのうへいか【天皇陛下】	こうひ【后妃】
とくだわら【徳俵】	へいか【陛下】	さんこう【三后】
どひょう【土俵】	うすぎぬ【薄絹】	たいこうたいこう【太皇太后】
どひょういり【土俵入】	えぎぬ【絵絹】	ぼこう【母后】
どひょうぎわ【土俵際】	きぎぬ【生絹】	こく【穀】
ひょう【俵】へウ	きぬ【絹】	こくう【穀雨】
き【汽】	きぬあや【絹綾】	こくぐら【穀倉】
きあつ【汽圧】	きぬいと【絹糸】	こくしょく【穀食】
きかん【汽罐】	きぬえ【絹絵】	こくそう【穀倉】
きしゃ【汽車】	きぬおりもの【絹織物】	こくぞうむし【穀象虫】
きすい【汽水】	きぬごし【絹漉し】【絹漉】	こくだち【穀断ち】【穀断】
きせん【汽船】	きぬこまち【絹小町】	こくつぶ【穀粒】
きてい【汽艇】	きぬさや【絹莢】	ごくつぶし【穀潰し】
きてき【汽笛】	きぬじ【絹地】	【穀潰】
よぎしゃ【夜汽車】	きぬばり【絹針】	こくふん【穀粉】
あしぶえ【葦笛】	きぬばり【絹張り】【絹張】	こくもつ【穀物】
きじぶえ【雉笛】	きぬふるい【絹篩】	こくるい【穀類】
きてき【汽笛】	きぬもの【絹物】	ごこく【五穀】
くさぶえ【草笛】	きぬわた【絹綿】	ざっこく【雑穀】
くちぶえ【口笛】	けん【絹】	しんこく【新穀】
けいてき【警笛】	けんし【絹糸】	だっこく【脱穀】
ごうてき【号笛】	けんぶ【絹布】	べいこく【米穀】
こてき【鼓笛】	けんぼん【絹本】	べいこくねんど【米穀年度】
しのぶえ【篠笛】	じゅんけん【純絹】	しゅはん【首班】
しばぶえ【柴笛】	しょうけん【正絹】	はん【班】
しょうのふえ【笙の笛】	じんけん【人絹】	はんちょう【班長】
たてぶえ【縦笛】	そけん【素絹】	はんべつ【班別】
つのぶえ【角笛】	ねりぎぬ【練り絹】【練絹】	せいろう【晴朗】
てき【笛】	ひらぎぬ【平絹】	ほがらか【朗らか】
はとぶえ【鳩笛】	ふじぎぬ【富士絹】	めいろう【明朗】
ふえ【笛】	ふとぎぬ【太絹】	ろう【朗】ラウ
ふえふけどおどらず	ぼうせきけんし【紡績絹糸】	ろうえい【朗詠】
【笛吹けど踊らず】	ほんけん【本絹】	ろうぎん【朗吟】
ふえふき【笛吹き】【笛吹】	まきぎぬ【巻き絹】【巻絹】	ろうしょう【朗誦】
ぼくてき【牧笛】	きさい【后】	ろうしょく【朗色】
みんてき【明笛】	きさき【后】	ろうどく【朗読】
むぎぶえ【麦笛】	こう【后】	ろうほう【朗報】
むてき【霧笛】	こうごう【皇后】	ろうろう【朗朗】
もがりぶえ【もがり笛】	こうごうぐう【皇后宮】	ろうわ【朗話】

<注 11> 文字素について：

「文字素」は、「自立文字素」と「附属文字素」に分け、自立文字素を、「蚕」の「天」と「虫」のように、独立して一文字として用いることができる文字素とし、附属文字素を、「俵」の人偏のように独立して用いることができない文字素とすると分かりやすい。意味を有するか否かに関わらずそのままの形では独立して用いることができないものは総て附属文字素ということにする。教科文法でいう、自立語と付属語に対応しているようであるが、文字素は、例えば、「代」の「人」偏と「弋」構のように複数の附属文字素によって一つの文字（本発表では一つの漢字）を構成することができる点で大きく異なる。附属文字素はさらに意味を類推できるものとできないものとに分かれることや、認定の方法などを示すことも必要となろうが、本発表では文字素を大きく二つに分けることに留めたい。漢字文字素の種類や数についての考え方は別の機会に譲りたい。

<引用・参考文献一覧>

- (1) 文部省・文化庁（1952-2002）『国語審議会報告書』1～22
- (2) 文部省（1957）『教育漢字の学年配当（漢字学習指導実験調査報告）』教育出版株式会社
- (3) 小林一仁（1978）「『教育漢字』再検討ノート」（『文藝言語研究・言語篇』第2巻 筑波大学文藝・言語学系）
- (4) 内閣告示（1981）「常用漢字表」（昭和56年10月1日）
- (5) 浜本純逸（1987）「教育基本語彙の選定」（『国語語彙史の研究八』和泉書院）
- (6) 小林一仁（1988）「教育漢字の歴史」（『漢字講座』12巻 明治書院）
- (7) 山本建雄（2000）「漢字漢語の指導の研究 — 漢字学年別西己当表の成立過程を中心に —」（『長崎大学教育学部紀要・教科教育学』vol.35, p.17-30; 2000）
- (8) 有元秀文（2006）「児童生徒の「学習漢字」と語彙の習得に関する基礎的研究」科学研究費補助金研究成果報告書
- (9) 文部省・文部科学省（2008）『小学校学習指導要領』（2009年文部科学省告示、2011年施行）
- (10) 国立国語研究所（2009）『教育基本語彙の基本的研究 — 増補改訂版 —』明治書院
- (11) 文化審議会（2010）「改訂常用漢字表」（平成22年6月7日）文化審議会答申
- (12) 内閣告示（2010）「常用漢字表」（平成22年11月30日）
- (13) 丹保健一（2011）「教育漢字「蚕」について — 使用頻度と教育基本語彙度から —」（『語彙研究』9号）
- (14) 丹保健一（2012）「教育漢字外漢字「甘」について」（三重大学教育学部紀要 第63巻）
- (15) 丹保健一（2013）「『学年別漢字配当表』の字種をめぐって — 「環」、「尺」 —」（三重大学教育学部紀要 第64巻）

<言語資料一覧>

- (1) 金田一春彦、他（1999）『新明解国語辞典』第5版（CDROM版）
- (2) 近藤・天野（1999）『日本語の語彙特性 第1巻 単語親密度』三省堂
- (3) 近藤・天野（1999）『日本語の語彙特性 第5巻 文字親密度』三省堂
- (4) 国立国語研究所（2009）『教育基本語彙の基本的研究 — 増補改訂版 —』明治書院
- (5) 国立国語研究所（2011）『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（DVD版）
- (6) 田中牧郎・代表（2011）「教科書コーパス語彙表」（『特定領域研究 代表田中牧郎「日本語コーパス 言語政策班 最終成果」CD-ROM（報告書、語彙表、漢字表））
- (7) 朝日新聞 1985～2012年（『聞蔵Ⅱ』朝日新聞記事検索サービス）